

# 無痛分娩における課題

医会の活動を中心に  
議員連盟での説明も踏まえて

公益社団法人日本産婦人科医会  
会長 石渡 勇

第196回記者懇談会 2025. 5. 14

# 分娩取扱施設別出生割合の推移

## 病院

### 総合病院

総合周産期母子医療センター

地域周産期母子医療センター

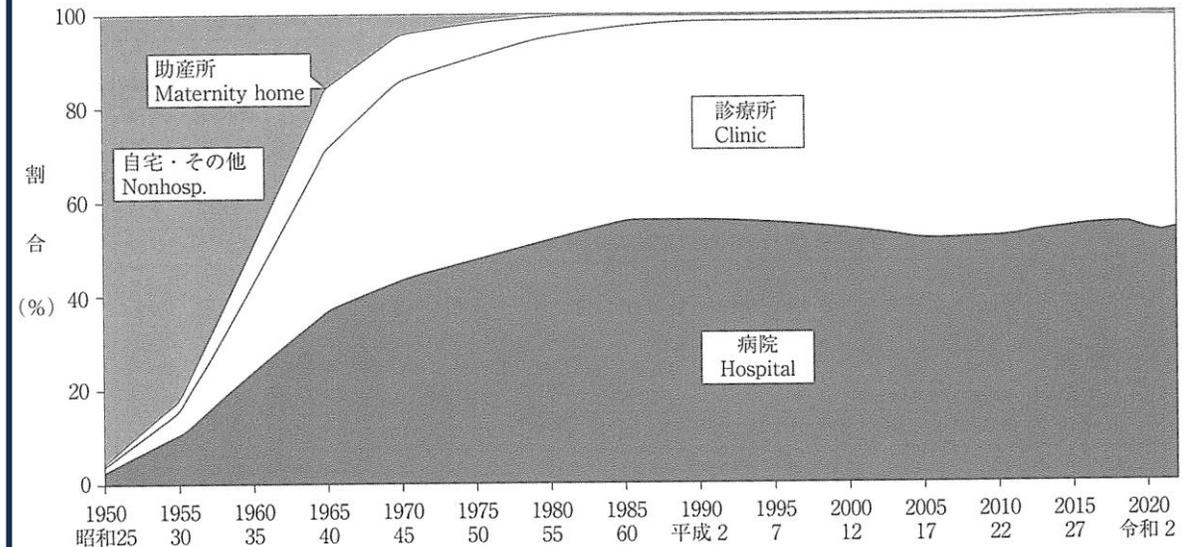
一般総合病院

### 産科病院

## 診療所(19床以下)

## 助産所

「母子保健の主な統計 令和6年刊行」より  
第6図 出生の場所別、出生割合（昭和25年～令和4年）  
Live Births and Percentages by Place of Birth, 1950-2022

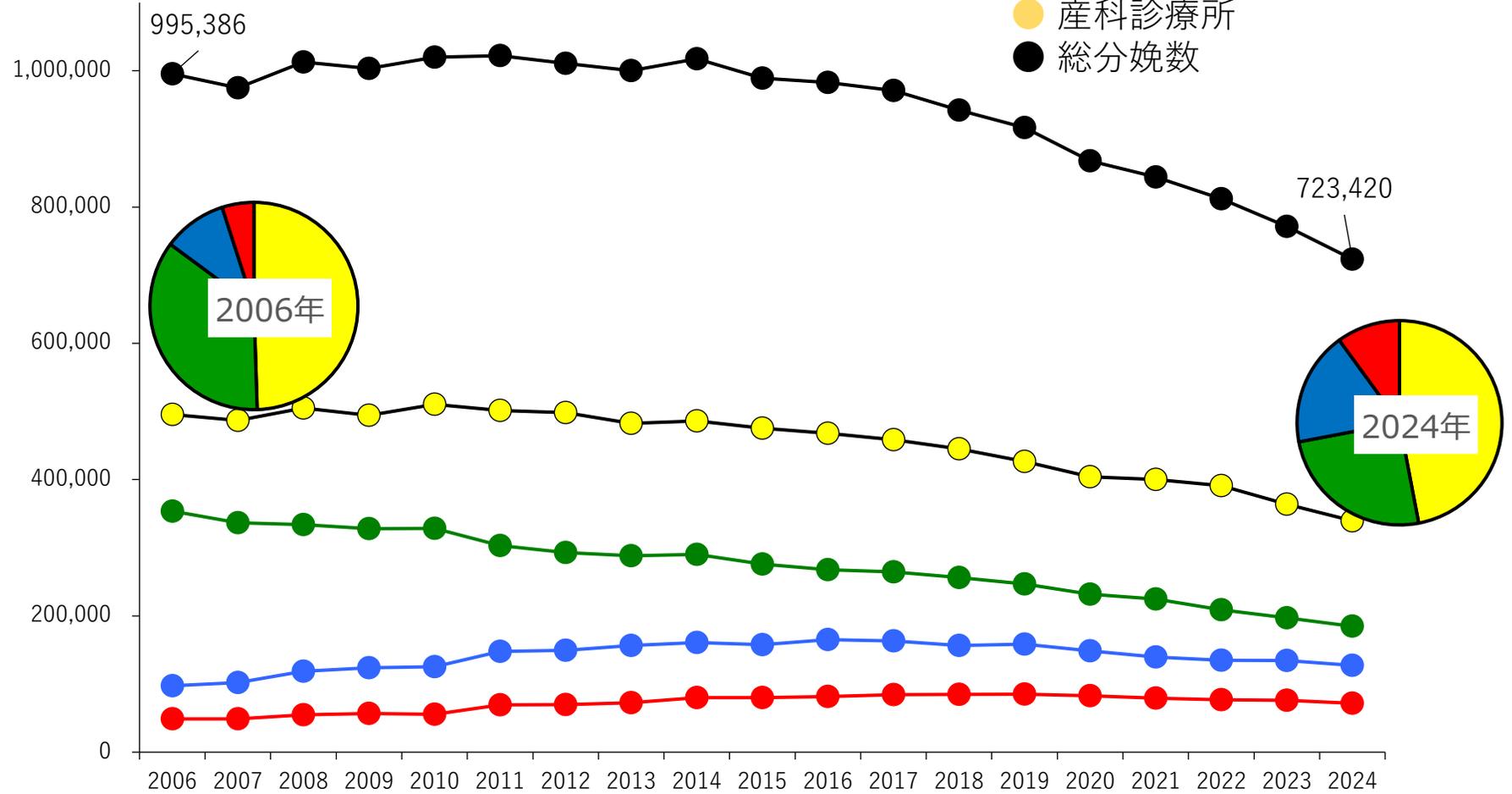
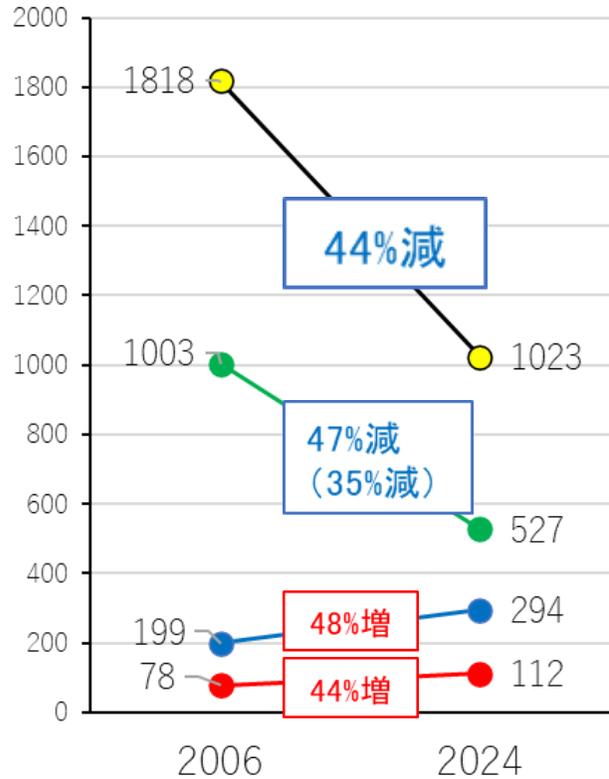


わが国では分娩のおおよそ半数を診療所が担っている状況が続いている

# 取扱分娩数の推移

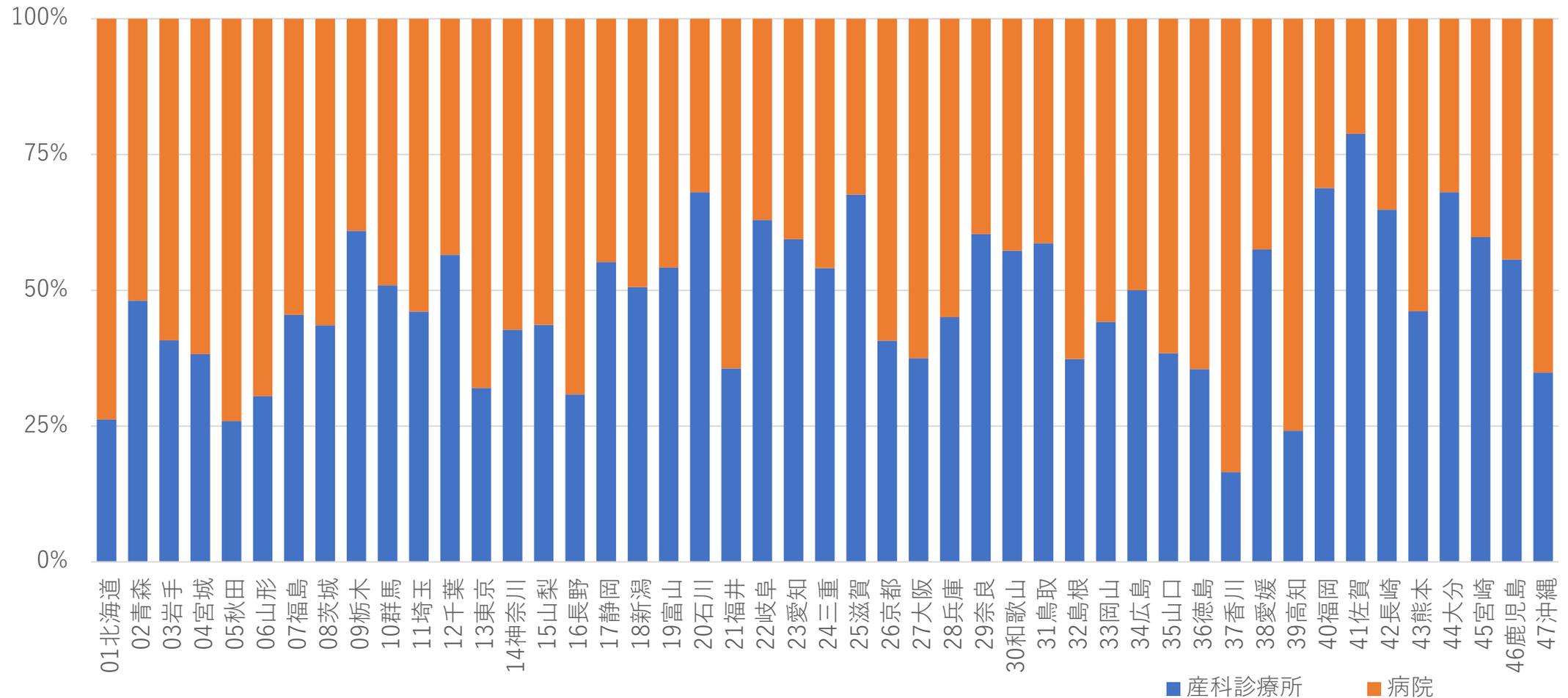
- 総合周産期母子医療センター
- 地域周産期母子医療センター
- 一般病院
- 産科診療所
- 総分娩数

施設数



わが国では分娩のおおよそ半数を産科診療所が担っている状況が続いており、特に地方に置いて産科診療所の担う役割は大きい

# 分娩が行われている場所（都道府県別）



特に地方において産科診療所の担う役割は大きい

また、無痛分娩の増加（2024年：13.7%、2019年に比較して2.7倍に増加）

# 医療安全に関する医会の取り組み(事業)

データ収集	<ul style="list-style-type: none"><li>施設情報調査(2017年～)</li><li>偶発事例報告 (2004年～)</li><li>妊産婦死亡報告 (2010年～)</li><li>妊産婦重篤合併症報告事業 (2021年～)</li><li>2024年「産科医療の質の調査」</li></ul>
会員へ	<ul style="list-style-type: none"><li>研修ノート (114冊既刊)</li><li>母体安全への提言 (14巻)</li><li>ホームページ</li><li>医会報</li></ul>
協力	<ul style="list-style-type: none"><li>2009年 産科医療補償制度</li><li>2015年 医療事故調査制度</li><li>2015年 日本母体救命システム普及協議会</li><li>2018年 無痛分関係学会・団体連絡協議会</li></ul>

# 無痛分娩を巡って(1)

## 共通認識

- 無痛分娩数・施設が増加している
- 地域差が大きい
- 安全な無痛分娩の提供（全国各地で可能な）が必要

## 課題

- 無痛分娩に関する研修の充実
- 無痛分娩実施施設の体制についての情報公開
- 費用の助成（分娩施設・妊産婦）
- 周産期（産科）管理 と 麻酔管理がともにできる
- 周産期（産科医師）と 麻酔科医の連携協働

# 無痛分娩を巡って(2)

JALA (since 2018) 無痛分関係学会・団体連絡協議会

The Japan Association for Labor Analgesia

【目的】 わが国における安全な無痛分娩の提供体制を構築するために必要な施策等について継続的に検討し必要な情報を共有することを通じて、相互に協働し連携した活動を展開できる体制を整備し、安全で妊産婦の自己決定権を尊重した無痛分娩とその質の向上を実現すること

【構成団体（順不同）】 日本医師会、日本産科婦人科学会、日本麻酔科学会、日本産婦人科学会、日本産科麻酔学会

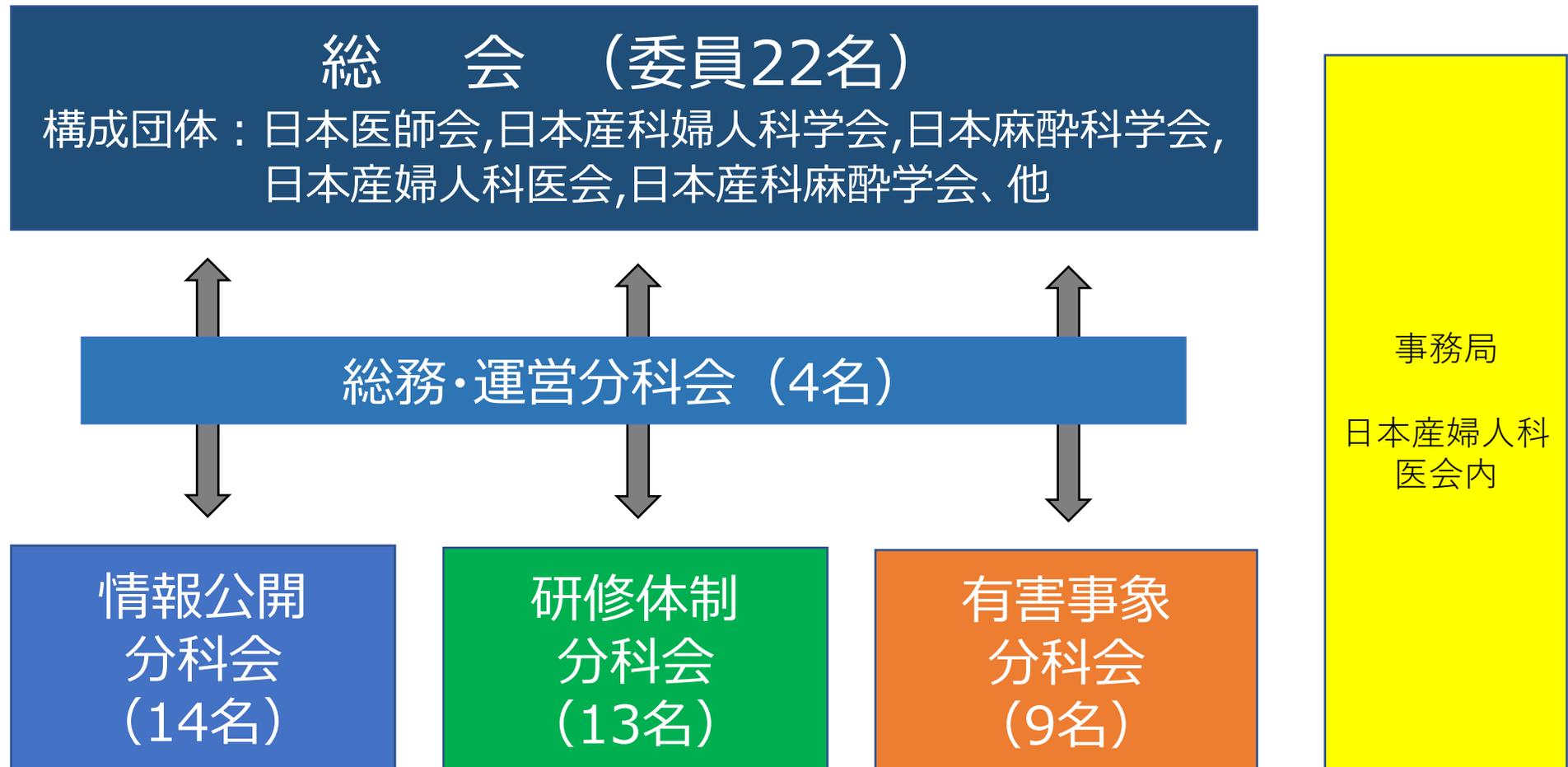
J-CIMELS (since 2015) 日本母体救命システム普及協議会

Japan Council for Implementation of Maternal Emergency Life-Saving System

【目的】 妊産婦死亡の更なる減少を目指すため、あらゆる職種の周産期医療関係者に標準的な母体救命法を普及させると共に、効果的な母体救命医療システムの開発とその実践を促進すること、及びこれによる妊産婦への質の高い医療の提供と周産期医療の向上を通じて社会の福祉に貢献すること

【構成団体（順不同）】 日本産科婦人科学会、日本麻酔科学会、日本産婦人科学会、日本臨床救急医学会、日本産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会、京都産婦人科救急診療研究会、母体死亡症例検討評価委員会

# 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会 (JALA) 組織図



## JALA総会の開催状況(各年度)

2018(4回), 2019(3回), 2020(3回), 2021(2回), 2022(1回), 2023(1回), 2024(2回)

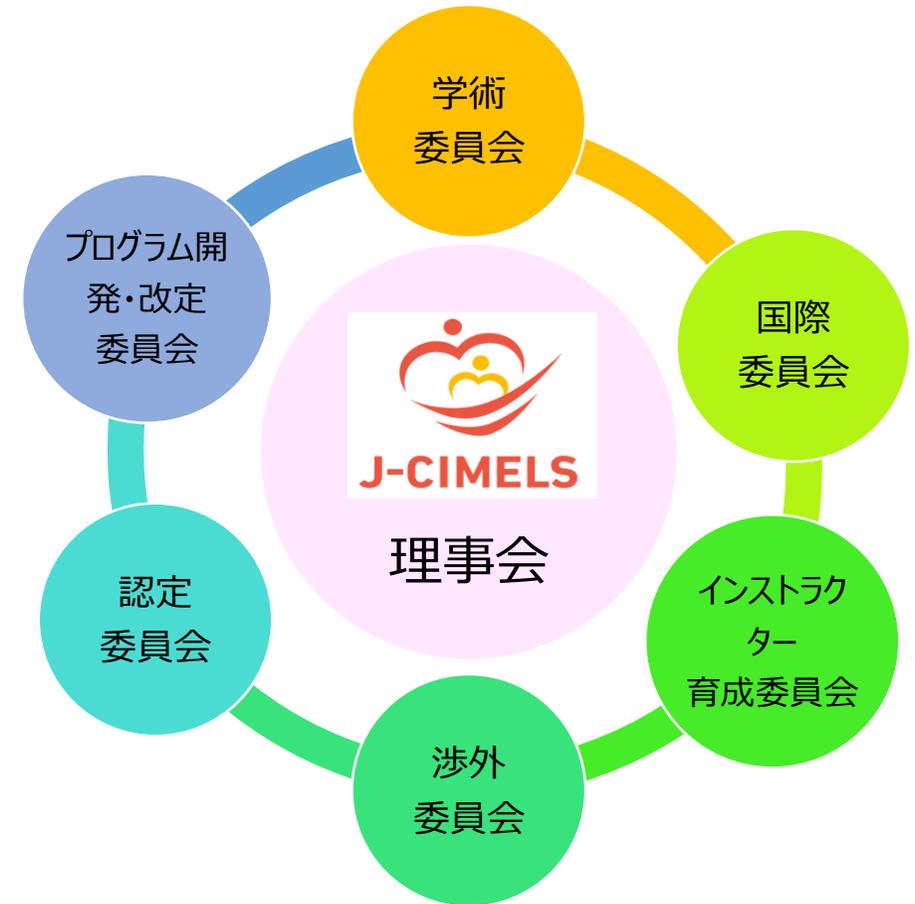
# 日本母体救命システム普及協議会 (J-CIMELS) 組織図

設立団体



協賛団体

日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会



コース(J-MELS): ベーシックコース, ベーシック インストラクター育成コース, アドバンスコース, 硬膜外鎮痛急変対応コース(2018~)

# 無痛分娩を巡って(3) 経緯

- 2017年 大阪・近畿で無痛分娩事故発生、マスコミ報道過熱  
妊産婦死亡報告事業（2010年～）で初めて無痛分娩が主因の死亡症例が報告された。無痛分娩に関する症例を抽出・分析した結果、母体死亡271例中14例（5.2%）に無痛分娩が行われていた。
- 2017年4月 第69回日本産科婦人科学会学術講演会（広島）で無痛分娩への注意喚起（緊急提言）  
→ 医会は2度にわたり**会員に無痛分娩への注意喚起**に関する通知を発出
- 2017年6月 分娩に関する実態調査を医会会員施設に**アンケート調査を実施**
- 2017年8月 厚生労働科学特別研究「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」が立ち上がる  
再発防止策の立案を行う責務がある、との観点から、より安全な無痛分娩の施行に向けて、産婦人科医療界が自ら提言すべき方策を関連学会等と共同で研究・検討し、実施
- 2018年1月 **研修ニュースで会員には注意喚起**

日本産婦人科医会の迅速な対応、各方面との連携・協力体制

# 無痛分娩を巡って(4)

厚生労働科学特別研究

「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究（2017年）」

## 目的

- 無痛分娩の実態を把握し、課題を抽出する。
- 安全な無痛分娩の実施体制についての医療界全体としてのコンセンサスを形成する。
- 無痛分娩の安全性確保・向上のために必要な方策を検討し、提言する。

2018年3月29日 無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」の公表

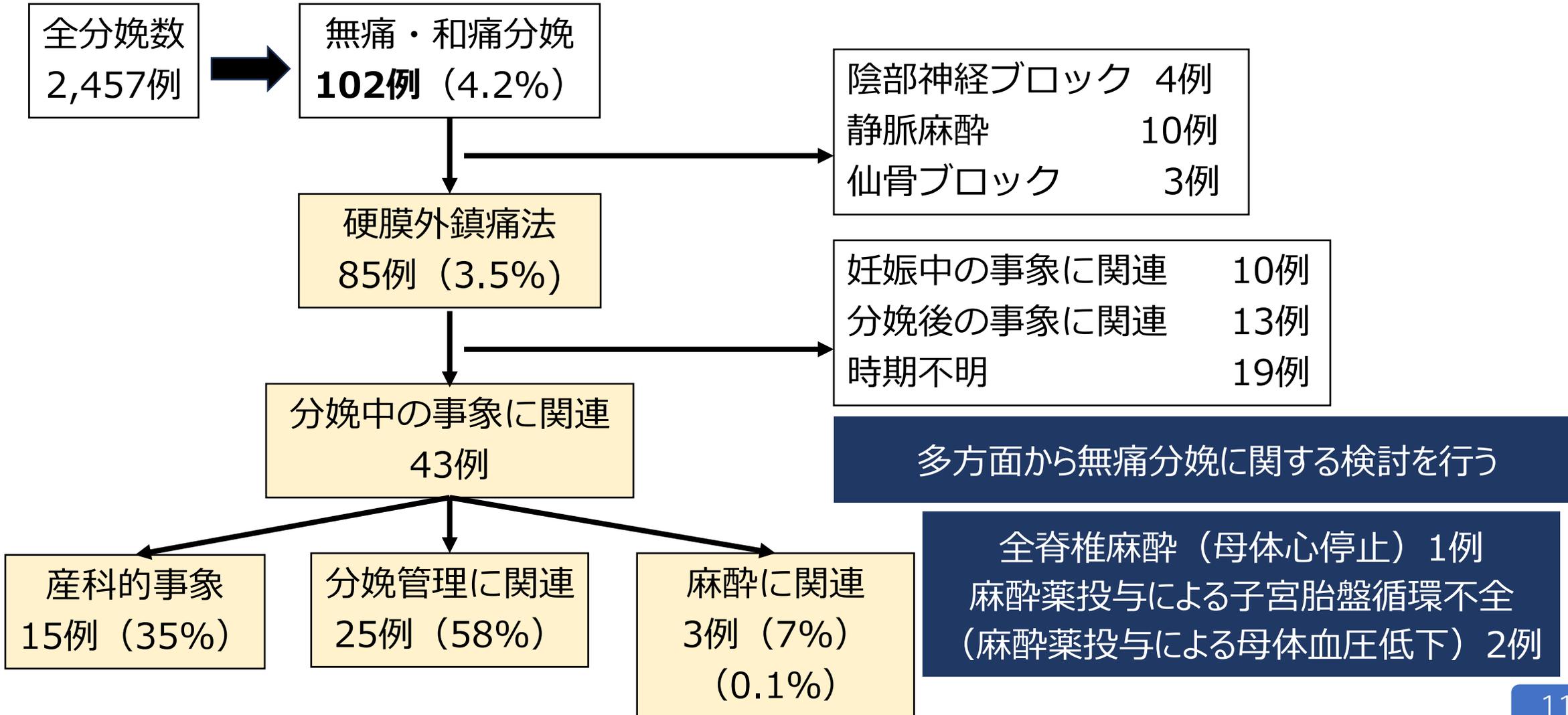
提言



研究班の提言を受け、JALA発足（医会にJALA事務局を置く）

# 無痛分娩を巡って(5)

脳性麻痺事例（2009～2019年までに産科医療補償制度に報告）の検討結果



# 無痛分娩を巡って(6)

## 母体安全への提言より 産科麻酔関係の提言

2013年	提言 4 : 周産期医療に麻酔科医が積極的に関われるような環境を整備する。
2014年	提言 3 : 癒着胎盤のマネージメントに習熟する
2015年	提言 4 : 麻酔管理 / 救命処置を行った際は、患者のバイタルサイン / 治療内容を記載する
2016年	提言 2 : 無痛分娩を提供する施設では、器械分娩や分娩時異常出血、麻酔合併症などに適切に対応できる体制を整える
2019年	提言 5 : ・帝王切開が予定されている妊産婦では気道確保困難のリスクを事前に評価し、ハイリスク症例は高次施設への紹介を検討する ・硬膜外麻酔による無痛分娩を受ける産婦では、高位脊髄くも膜下麻酔による呼吸抑制が起こりうるため、試験注入と少量分割注入とにより予防に努め、呼吸抑制が起こった場合でも対応できるように準備をしておく
2021年	提言 3 : 全身麻酔の気道確保困難による妊産婦死亡を削減する
2023年	提言 2 : 硬膜外無痛分娩では間接的に重篤な合併症をもたらすことがあり、産婦人科医も麻酔科医もこれらの合併症を念頭に、事前説明と適切な麻酔・分娩管理を行う。

提言



医会「妊産婦死亡報告事業」により毎年発行

# 無痛分娩を巡って(7)

- 2024年9月 第4回「妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会」  
日本産科麻酔学会 照井克生理事長によるプレゼンテーション「麻酔薬を用いた産痛緩和について」
- 2025年2月 議員連盟「日本の安全な麻酔・周術期医療を考える会」  
医会 石渡会長による説明

◆ 東京都知事の無痛分娩への助成公約関連の動き ◆

- 2024年6月 無痛分娩に関する都民WEBアンケート実施 
- 2024年9月 分娩取扱施設を対象とした「無痛分娩に関わる実態調査」実施 
- 2025年1月 報道「近年増加の無痛分娩、東京都が費用補助へ…妊婦の負担軽減し少子化対策につなげる狙い」  
東京都 都内分娩取扱医療機関管理者宛に「東京都無痛分娩費用助成等事業について」を連絡

# 無痛分娩を巡って(8)

安全なお産（硬膜外麻酔分娩）のために  
議員・議連にお願いしたいこと

- 世界に冠たる周産期医療の確保★分娩機関の減少している状況下に分娩機関の確保  
→ 早急な経済的支援
- 麻酔科医★数が少ない  
→ 長期的麻酔科医充足のための医師数増加政策
- 産科医★硬膜外麻酔技術のトレーニングが必要  
→ 安全確保のための麻酔・救急トレーニングの義務化等政策
- 分娩施設★安全な麻酔管理・モニター類の整備  
→ 地域に偏らない硬膜外麻酔分娩の助成  
→ 分娩室における安全設備拡充のための助成
- 学術研究★硬膜外麻酔・分娩誘発のタイミング・至適量など研究が必要  
→ 安全な硬膜外麻酔・分娩誘発のための研究補助